



村民号で 世界遺産平等院 に行きました！



10月26日（日）41人参加で行きました。雨が心配されましたが到着の頃には雨も上がり記念写真撮影後自由行動でゆっくりと境内を散策し宇治川沿いをウォーキングしたのちに昼食をいただきました。次に紅葉の名所、光明寺の長い石段を上ってお参りしましたがまだ紅葉には早く残念でした。予定変更で次の行先までさらに約1キロ歩き、お土産を買い帰路につきました。車中はクイズやビンゴゲームで楽しく過ごし、最後に来年の村民号の参考のためアンケートの記入をお願いしました。

子ども力士が躍動、歓声に沸いた寄宮神社秋祭り

10月13日の午後、寄宮神社秋祭りが開催されました。本殿での神事に続き、氏子の男子による「神の相撲」、その後女子も加わり「割り相撲」と※「三番消し」が行われました。今年から女子が土俵に立つことが認められ、中学生以下の男子9人、女子8人が奉納相撲に参加。秋祭り独特の雰囲気の中、子ども達の闘志あふれる姿が随所に見られ、観客からの声援や拍手で境内は大変盛り上がりしました。最後の餅まきで会場は再び熱気に包まれ、秋祭りは幕を閉じました。 ※3人抜きのことです



身近で見られる植物 ⑤3

シロヨメナ〈キク科〉



秋になると、菊花展などもあり菊の花の季節です。野辺に咲く野菊にはよく似た花が多く、今回三谷道で見つけた白い野菊の同定は

難しかったですが、シロヨメナ

(ヤマシロギク) のようです。

ヨメナの花は薄紫ですが、この花は白なのでシロヨメナと呼ばれ、ヤマシロギクとも呼ばれています。この花は舌状花と筒状花で一輪の花を構成しているのが特徴です。



議会報告会開催されました

10月22日(水) ふれあい倶楽部ホールで地区民19人参加で開催されました。議会報告(9月定例会の内容を中心に報告)の後、質疑応答が行われ出席者から多くの質問があり、予定時間超過で終了しました。



お知らせ

- 11月28日(金) 宿南地区文化祭芸能発表リハーサル(19時~21時)
- 11月30日(日) 宿南地区文化祭(午前 小学校学習発表会 午後 宿南地区芸能発表会)
- 12月 8日(月) 9日(火) スマホ相談会 ふれあい倶楽部ホール(回覧チラシをご参照下さい)
- 12月21日(日) クリスマス会 ふれあい倶楽部ホール 10時~



草庵先生紹介

日記 81



見慣れた但馬路の風景の中を、草庵を乗せたかごは豊岡に向かう

宮崎和夫さん作

草庵はたびたび豊岡藩に出かけて講義するようになった。生野の変の翌年、元治元(1864)年11月に出かけ、この年には引き続いて12月にも出かけている。

「早起き。(書院での)講義は『史略』。検読5, 6人午後豊岡藩に赴く」(元治元年12月7日)

このようにして翌年の元治2年(4月より慶応に改元)には、1月から始まって、1年間に8回も講義に出かけた。明治4(1871)年、廃藩置県で豊岡藩がなくなるまでの7年間に20回を超えて豊岡藩で講義をした。

草庵は豊岡藩に講義に行く途中のかごの中で漢詩を残している。「慶応2年4月14日 家を出て豊岡藩に赴く途中 見慣れた山の色はいつもと変わらない鶏や犬がいる村を過ぎ、また竹やぶの側を過ぎる。かごの窓を開け景色をゆっくり見る。ふと思いつきこの一首を作った」(意訳)時代の激しい移り変わりの中で、いつもと変わらない但馬の山々などの景色に心を慰められながら、草庵は豊岡までの15キロほどを往復していた。

草庵は藩主や藩士にどんな内容を講義していたのだろうか。草庵自身は国家の大事に関わるような文書は意図的に残していない、と言われている。しかし、池田紫星は、わずかに残ったものからおおよそ次のようなことを講義していたのだらうと推測している

「国家のあり方として・国柄を守る・国力を養う・国の威厳を保つ・外国との交際を慎む・貿易の損益を考える

藩のあり方として・藩主藩士と民とが心を合わせる・規律を持って藩士の資質を整え保つ・風俗が華美にならない・藩の悪弊を直し人々の信を得る・質素儉約に努める・学問を大事にする、等」(池田紫星著「池田草庵」から)

国や藩の存続が問われるこの時期、語る草庵も聞く藩士たちも真剣そのものだったことだろう。

池田草庵先生に学ぶ会